



## 2022年2月末の信用金庫の預金・貸出金動向（速報）

ー リーマン・ショックを超え長期化する中小企業の資金確保の動き ー

井上 有弘

### ポイント

- 2022年2月末の全国254信用金庫の預金残高の合計は、160.8兆円、前年同月比1.8%増となった。貸出金残高の合計は、78.3兆円、同0.3%増となった。
- 今回のコロナ禍は、リーマン・ショック時と比較しても、資金繰り支援である企業向け運転資金が急速かつ大幅に増加したことが分かる。また、その後の資金確保の動きが長期化している。
- 今後は、資金繰り支援の継続とともに、3月4日に公表された「中小企業活性化パッケージ」にもあるように、ポストコロナを見据えた信用金庫による伴走支援が求められていく。

### 1. 2022年2月末の信用金庫の預金・貸出金

2年前の2020年3月11日、WHO(世界保健機関)が新型コロナウイルスの感染拡大をパンデミック(世界的な大流行)と認定してから2年が経過した。この間、信用金庫の預金、貸出金は、政府の資金繰り支援策もあって大きく増加したが、前年同月比増減率の動きは一巡し、コロナ禍前の水準に戻っている(図表1)。

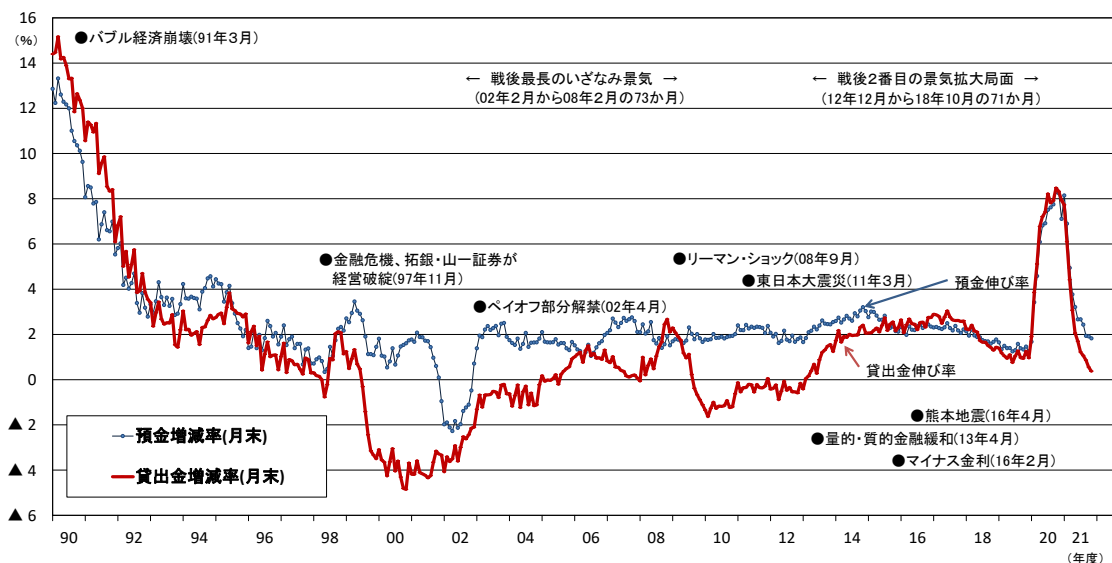
2022年2月末の全国254信用金庫の預金残高の合計は、160.8兆円、前年同月比1.8%増となった。貸出金残高の合計は、78.3兆円、同0.3%増となった。

### 2. 過去のショック時との比較

本稿では、信用金庫の企業向け貸出金の動向について、今回のコロナ禍と過去のショック時とを比較する。経済危機や自然災害の際、信用金庫の取引先中小企業では、売上減少などで資金繰り難となるケースが多い。対策として政府による支援策が導入され、信用金庫をはじめとした金融機関による資金繰り支援が行われる。

今回のコロナ禍では、2020年5月から21年3月まで民間金融機関にも実質無利子・無担保の制度融資が導入されたこともあり、企業向け運転資金の急増をもたらした。

(図表1) 信用金庫の預金・貸出金増減率(前年同月比)の推移



(備考) 信金中央金庫 地域・中小企業研究所作成

リーマン・ショック時のグラフと比較すると、今回のコロナ禍では、企業向け運転資金が急速かつ大幅に増加したことが分かる(図表2)。また、リーマン・ショック時には15か月後には企業向け運転資金が前年同月比で減少に転じているが、今回のコロナ禍では20か月以上経っても減少に転じていない。

感染の拡大と収束が繰り返され、終わりが見通せないなか、手元資金の確保を図る中小企業の動きが長期化していると考えられる。特に、相次ぐ営業自粛などで売上減少に見舞われている飲食業など個人向け対面サービスを行う業種で、運転資金の借入額が高い水準のままにある。例えば、信用金庫による飲食業向けの運転資金残高は、20年3月末の4,611億円から、21年6月末にちょうど1兆円と2倍以上となった後、21年12月末でも9,835億円とほとんど返済が進んでいない。

### 3. 効果的な本業支援を

資金繰り支援の局面では、信用金庫をはじめとした地域金融機関の融資により運転資金が迅速に行き渡った。今後は、資金繰り支援の継続だけでなく、収益力改善、事業再生に向けた取組みに局面が移っていく。22年3月4日に公表された「中小企業活性化パッケージ」<sup>1</sup>にもあるように、ポストコロナを見据えた信用金庫による伴走支援が求められてくる。

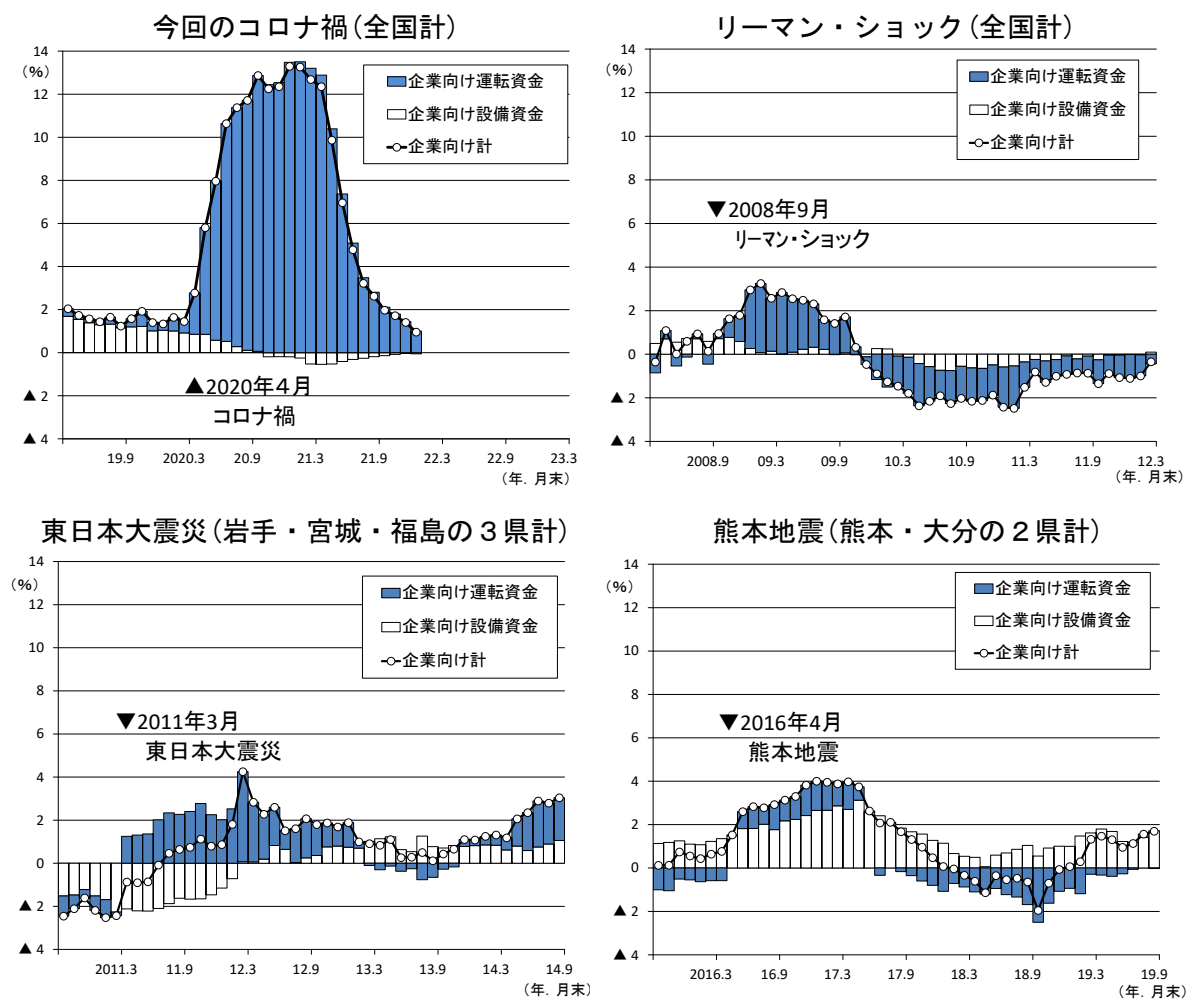
以上

※「信用金庫地区別預金・貸出金(残高)」、「信用金庫預金、現金、貸出金残高(地区・都道府県別)」、「業種別貸出金(地区・都道府県別)」を信用金庫に還元しております。併せて、ご活用ください。

<sup>1</sup> 経済産業省・金融庁・財務省が連携して策定した総合的な支援策展開のためのパッケージ。

<https://www.chusho.meti.go.jp/kinyu/2022/220304.html>

(図表2) ショック時の信用金庫の企業向け貸出金動向(運転・設備資金別の寄与度)



(備考) 信金中央金庫 地域・中小企業研究所作成

本レポートは、情報提供のみを目的とした上記時点における当研究所の意見です。施策実施等に関する最終決定は、ご自身の判断でなさるようお願いいたします。また、当研究所が信頼できると考える情報源から得た各種データ等に基づいて、この資料は作成されておりますが、その情報の正確性および完全性について当研究所が保証するものではありません。